

<特徴的な活動または交付金活用事例>

○ヒメイワダレソウを植栽して草刈り軽減に取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県輪島市小池協定			
協定面積 7.3ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 147万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	積立費		60%
		農道の維持管理・補修等		34%
		役員報酬		6%
協定参加者	農業者15人			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

当集落は、市北西部の日本海に面した所に位置し、小区画の棚田が広がっており、農業者の高齢化に伴い農業生産活動の継続が懸念されていた。

そこで、本制度を活用してほ場整備や農道・用排水路の草刈り、清掃・修繕作業を集落一体となって取り組み、平成21年には棚田保全組合を設立して、集落ぐるみのサポート体制を強化している。

3. 取組の内容

担い手への農作業委託を推進しており、第3期対策からは維持困難な農用地が発生した場合に、集落ぐるみで引き受ける体制としている。

また、当交付金の活用方法として、草刈作業の軽減や斜面の保護を目的として、ヒメイワダレソウを当交付金で購入し、金沢などから訪れた農村ボランティアと共に植栽をして効率的な農地保全と交流による活性化に取り組んでいる。

その他、農業生産活動が円滑に継続されるよう田を耕作しやすい形に整備したり、用水ポンプを設置するなどの生産基盤整備の拡充している。さらには棚田米やじゃがいもなどの野菜を直売所で販売したり、自然生態系を学習する場として、地元小学生と一緒に集落内の生き物調査を行ってビオトープ（野生の生き物のすみか）を作るなど、本交付金を活用して様々な活動を行っている。



【ヒメイワダレソウの植栽作業】



【地元小学生との生き物調査】

[集落の将来像]

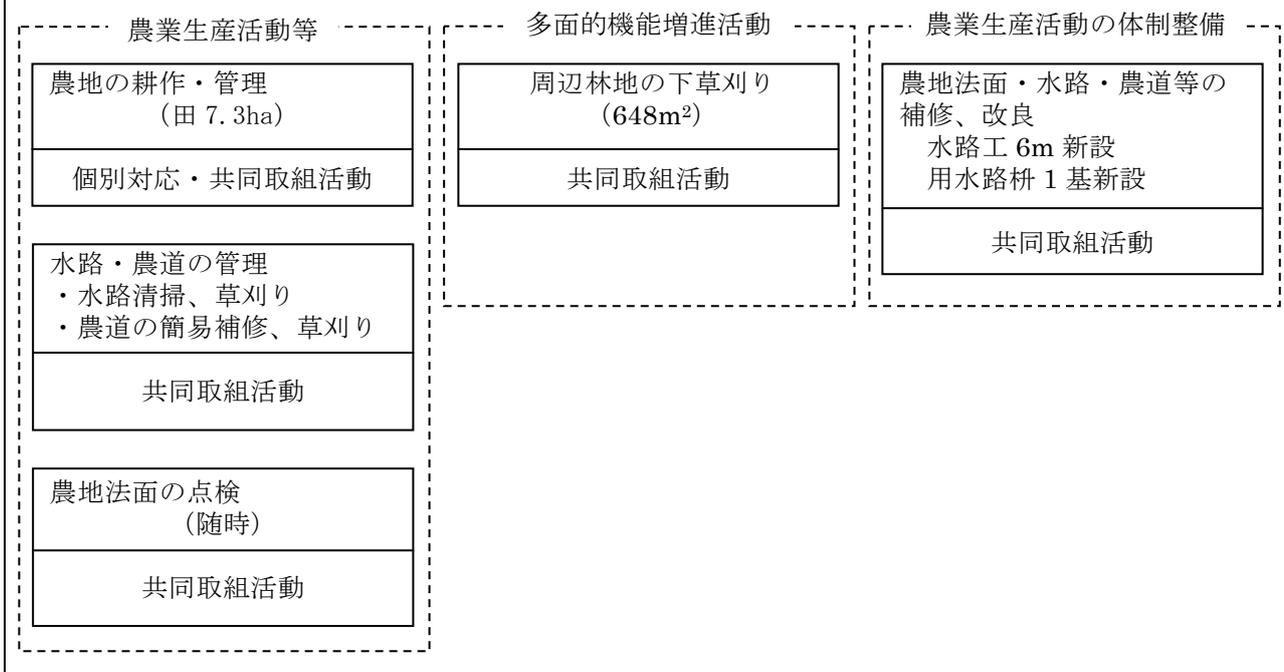
地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

○将来営農の継続が困難になる農用地が生じた場合には、協定農業者で支え合う体制を維持する。

[活動内容]



4. 今後の課題等

当制度に継続して取り組むことにより、棚田を守っていく話し合いが行われるようになり、生産基盤の整備や棚田保全の組織育成がなされるとともに、ボランティアの方々や地元小学生などとの交流が増え、集落が活性化してきた。

今後も地元産米のブランド化などに取り組み、世界農業遺産の認定地域として将来のことは見据えた農業形態への移行や集落の活性化に本交付金を有効に活用していきたいと考えている。



【小池棚田米を販売】

[これまでの主な効果]

- 担い手への農作業委託
 - ・ 協定農用地の農作業委託 0.87ha
- 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携
 - ・ 非農家との連携 10名
- 生態系に配慮した取り組み (小学生とビオトープづくり)
- 都市住民との交流 (ヒメイワダレソウをいしかわ農村ボランティアと共に植栽)
- 地元産のブランド米を販売 (小池棚田米)